

(講座)臨床薬学 (研究室)薬剤学
(氏名)中村純三 (職名)教授

【研究テーマ】

1. 薬物の消化管からの吸収と代謝に関する研究
2. 薬物の臓器表面からの吸収に関する研究
3. 副作用の軽減を目的とした最適な薬物治療法の開発

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Mugen Teshima, Shintaro Fumoto, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Kaname Ohyama, Tadahiro Nakamura, Nobuhiro Ichikawa, Mikiro Nakashima, Hitoshi Sasaki:
Prolonged blood concentration of prednisolone after intravenous injection of liposomal palmitoyl prednisolone,
Journal of Controlled Release, 112 (3), 320-328 (2006). (IF 3.696)
2. Mugen Teshima, Shigeru Kawakami, Shintaro Fumoto, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Mikiro Nakashima, Hiroo Nakagawa, Nobuhiro Ichikawa, Hitoshi Sasaki:
PEGylated liposomes loading palmitoyl prednisolone for prolonged blood concentration of prednisolone,
Biological & Pharmaceutical Bulletin, 29 (7), 1436-1440 (2006). (IF 1.317)
3. Hitoshi Sasaki, Shohei Yoshida, Takashi Kitahara, Takashi Yoshioka, Hiroo Nakagawa, Tadahiro Nakamura, Nobuhiro Ichikawa, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Mikiro Nakashima:
Influence of disease stage on polyethylenimine-mediated plasmid DNA delivery in murine hepatitis,
International Journal of Pharmaceutics, 318 (1-2), 139-145 (2006). (IF 2.156)
4. Junzo Nakamura, Shintaro Fumoto, Keiko Shoji, Yukinobu Kodama, Junya Nishi, Mikiro Nakashima, Hitoshi Sasaki, Koyo Nishida:
Stomach-selective gene transfer following the administration of naked plasmid DNA onto the gastric serosal surface in mice,
Biological & Pharmaceutical Bulletin, 29 (10), 2082-2086 (2006). (IF 1.317)
5. Yuki Tada, Takashi Kitahara, Takashi Yoshioka, Tadahiro Nakamura, Nobuhiro Ichikawa, Mikiro Nakashima, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Hitoshi Sasaki:
Partial hepatectomy enhances polyethylenimine-mediated plasmid DNA delivery,
Biological & Pharmaceutical Bulletin, 29 (8), 1712-1716 (2006). (IF 1.317)

6. Koji Sakanaka, Kouichi Kawazu, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Mikiro Nakashima, Tadahiro Nakamura, Akemi Oshita, Nobuhiro Ichikawa, Hitoshi Sasaki:
Transport of timolol and tilisolol in rabbit corneal epithelium,
Biological & Pharmaceutical Bulletin, 29 (10), 2143-2147 (2006). (IF 1.317)

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Hitoshi Sasaki, Mugen Teshima, Nobuhiro Ichikawa, Mikiro Nakashima, Koyo Nishida, Junzo Nakamura:
Reticuloendothelial delivery or prolonged blood concentration of prednisolone after intravenous injection of liposomal palmitoyl prednisolone,
The 3rd Korea-Japan Joint Symposium on Drug Delivery and Therapy, PDD-8, Seoul, Korea (2006).

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 西田孝洋、津田佳代子、本田富得、川上明夏、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：
肝臓ターゲティングを目的とした表面投与法の開発：肝臓表面からの薬物吸収動態に及ぼす病態や肝切除の影響、
日本薬剤学会第21年会、平成18年3月17日、金沢21世紀美術館、金沢市
2. 西田孝洋、中村純三：
薬学専門教育を目的とした授業ホームページの活用、
日本薬学会第126年会、平成18年3月29日、仙台市
3. 山内浩子、冨田勇己、一川暢宏、藤秀人、佐々木均、中嶋幹郎、西田孝洋、中村純三：
肝再生の遺伝子デリバリーに対する影響－肝切除マウスにおける polyethyleneimine/pDNA 複合体の遺伝子発現、
日本薬学会第126年会、平成18年3月29日、仙台市
4. 川上恵、中嶋幹郎、北原隆志、一川暢宏、西田孝洋、中村純三、谷山紘太郎、北岡隆、佐々木均：
抗アレルギー点眼薬の角膜上皮バリアーに対する影響、
日本薬学会第126年会、平成18年3月30日、仙台市
5. 佐々木均、山内浩子、冨田勇己、一川暢宏、藤秀人、中嶋幹郎、西田孝洋、中村純三：
Polyethylenimine を用いた遺伝子デリバリーへの病態の影響－四塩化炭素誘発肝障害マウスにおける検討、
日本薬学会第126年会、平成18年3月30日、仙台市

6. 手嶋無限、川上茂、西田孝洋、中村純三、一川暢宏、中嶋幹郎、佐々木均：
プレドニゾロンの誘導体およびリポソーム製剤を組み合わせた薬物体内動態制御、
日本薬学会第 126 年会、平成 18 年 3 月 29 日、仙台市
7. 西田孝洋、西順也、中村純三：
薬剤師卒後教育の支援を目的としたホームページ「e 卒後教育」構築の試み、
医療薬学フォーラム 2006、平成 18 年 7 月 15～16 日、大阪国際交流センター、大阪府
8. 西順也、中島由希子、西田孝洋、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：
マーカー物質の透過性を指標とした腹膜肥厚の評価法、
第 16 回日本医療薬学会年会、平成 18 年 10 月 1 日、中央公民館、金沢市
9. 西田孝洋、西順也、三宅秀明、中村純三：
エクセルを用いた薬物速度論の系統的教育、
第 16 回日本医療薬学会年会、平成 18 年 9 月 30 日、新塀町小学校、金沢市
10. 中嶋幹郎、川上恵、西田孝洋、中村純三、谷山紘太郎、北岡隆、一川暢宏、佐々木均：
点眼薬の角膜上皮バリアーに対する影響－新しい評価システムによる検討－、
第 16 回日本医療薬学会年会、平成 18 年 10 月 1 日、新塀町小学校、金沢市
11. 西田孝洋、西順也、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：
臓器選択的な消失過程の阻害に基づく新規 DDS の開発、
第 21 回日本薬物動態学会年会、平成 18 年 11 月 30 日、江戸川区総合区民ホール、東京都
12. 中村純三、麓伸太郎、土持真由美、兒玉幸修、西順也、中嶋幹郎、佐々木均：
Plasmid DNA の肝臓表面への微量持続滴下による肝臓内部特異的遺伝子導入、
第 21 回日本薬物動態学会年会、平成 18 年 11 月 30 日、江戸川区総合区民ホール、東京都
13. 三宅秀明、西田孝洋、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、栄田敏之、中村純三：
肝灌流実験による低体温療法時の薬物動態変動の解明、
第 23 回日本薬学会九州支部大会、平成 18 年 12 月 10 日、熊本大学薬学部、熊本市
14. 木下真理子、西田孝洋、兒玉幸修、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：
肝臓への投与形態に応じた効果的な製剤設計に関する薬物動態学的検討、
第 23 回日本薬学会九州支部大会、平成 18 年 12 月 10 日、熊本大学薬学部、熊本市
15. 山下千恵、田代浩幸、川原利春、永田修一、中村博、大脇裕一、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎：
新様式の処方せん導入による後発医薬品の利用状況の変化、
第 23 回日本薬学会九州支部大会、平成 18 年 12 月 9 日、熊本大学薬学部、熊本市

【研究費取得状況】

1. 癌病巣部位への制癌剤の選択的集積を目的とした肝臓表面投与法の開発； 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

【学会役員等】

1. 中村純三・教授、日本薬剤学会評議員、平成 13 年 2 月～
2. 中村純三・教授、日本 DDS 学会評議員、平成 15 年 6 月 21 日～
3. 中村純三・教授、文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター
科学技術専門家ネットワーク専門調査員、平成 14 年 4 月 1 日～

【過去の研究業績統計】

原著論文	(欧文) 130 編	(邦文) 3 編
総説	(欧文) 3 編	(邦文) 1 編
著書	(欧文) 3 編	(邦文) 2 編
紀要	(欧文) 1 編	(邦文) 4 編
特許	1 件	